

りんごの消費拡大と地域の農業を守るため、 シードルの生産販売などにも取り組む竹村暢子さん

松川町のりんご農園『りんご屋たけむら』で、果樹栽培のほかシードルなどの生産・販売をしている暢子さん。「自分で作っている”りんご”からおいしいお酒ができる」というところからハマリ、現在、シードルの醸造所を農園内に開く準備をしています。



◇それでは家族構成を教えてください。

☆主人と主人のお父さんと子供が3人いるんですけど、上の2人は大学生と社会人で家を出ています。男・男・男です。3人の男の子のお母さん！

誰か継いでくれそう？長男の大学生の子は継いでもいいかなあとは言ってるんですけど。大学での専攻は？農学部で果樹ですね。経営とか学んでもおもしろいなって思ったら戻ってきてくれればいいかなあって。楽しみです。今は高校生の息子さんしかいないんですね。ちょっと寂しいですね。帰ってくるとね「もう行っちゃうの」って思いますけど、いなきゃいけないで夕飯とかも楽ですし（笑）。とにかく学校が遠くて送り迎えがすごい大変だったので、それが一人ずつ減ってって「楽になってきたなあ」って思ってたところに自分のやりたいことが出てきて、意図せず色々な話がきたりして。まあ子育てが一段落して出来るようになったから話がくるのかもしれないですけどね。そうかもしれないですね。

◇子育て中の頃、お仕事に家事にと大変だったと思うんですが？

☆忙しい時期になると、もう朝も昼も夜もなくっていうか。パートさんも来てもらうんですけど、収穫して選果して出荷するまで自分でやってるんですよね。直売所もやってるので昼間は接客と収穫、夜は選果をやって、贈答の頃になると事務仕事もあって、ホント子育ての頃は5分で料理を作って「はい、お食べ～」って感じ。もう勝手に食べてみたいな（笑）。自分もちょこっと食べてから仕事するっていう位で。お嫁に来た時からおばあちゃんがいなかったの、ご飯を作るとか掃除するとか、家事は一人で全部やってました。ご飯だけは取りあえず作るって感じで。掃除とかは「もう後～、掃除はしなくても死にやあせん」みたいな（笑）。そんな感じの生活でしたね。いや～、聞いてるだけでも大変さが伝わってきます！反対に得たものってありますか？ん～そうですね、自分たちが一生懸命働く姿を子供たちに見せられたことかなあ。「継いでほしい」とか、「農園どうするの？」とか、「あなた長男でしょ」とかって一言も言ったことがなくて、「好きな事を好きなようにやりなさい、勉強が好きなら大学行って自分の好きな勉強しなさい」とか、「得意な事や、やりたい仕事を見つけてやりなさい」って言ってたんですけど、意図せず素直に育ってくれて良かったなあって。長男もそうですけど私たちの姿を見てたことによって農業の仕事を将来するのかなあって。実際に働いている背中を見てお子さんたちも何か思うところはあったんじゃないですかね。そうですね。次男もここにいる頃は反抗的な

感じだったんですけど、自分が働くようになったら「お母さんあんまり無理するなよ」とか言うんですよ。(ウルウル) うわ～、優しい！色々忙しくやってると「まあまあ、ほどほどにね。」って言われたりするんで。(涙、涙) ほったらかしてるようで、見るところは見てくれてるのかなあって。うん、そう思います。でも、なかなか言えないですよ。いい息子さんたちですねえ。息子さんたちと触れあう時間ってなかなかなかったんじゃないですか？まあ、でも呼べば戻れる所で仕事してるんで、子供たちも安心感がありましたよねえ、きっと。駅とか、お友達の家とかも遠いので、もう本当に気楽に「迎え来て」って呼ばれたり(笑)。仕事の途中だろうが何だろうが。まあでも、そこが自営業のいい所で、手を休めて行けるし、いいといえいいですよ。そうですね～。お兄ちゃん達は、帰ってきた時にお手伝いはしてくれますか？長男はやってくれますね。まあ「手伝いに帰ってこい」って呼ぶんですけど、ちゃんと手伝ってくれますし。次男は働いてるんで、ここに帰って来た時は休みたいんでしょうね。「頼む、手伝って」って言っても「ん～分かった～」って言ったきり寝てました(笑)。そうですねえ。高校生のお子さんは？高校生はやりませんねえ。まあ大変な時期ですしね。まあ上の子たちも高校生の頃は100回位言わないとやってくれなかったですからねえ。ちょっと離れた所に畑があるんですよ。そこで梨を作っていて収穫の時なんかは、いつ直売所にお客さんが来るか分からないし、畑とお店を行ったり来たりするのも大変なので、お兄ちゃんに「頼む、店番してて」って頼んでたんですけど、ここでお兄ちゃんは当時、受験勉強しながら店番してましたね(笑)。今は、働いてくれる人を見つけるのも大変でね。その期間、その時だけなので。年中お願いできると体空けて待ってくださるんですけど、そうじゃないんでね。何日から何日まで、何人っていてもなかなかね。今年も花が咲くのが早かったので、時期が読めないじゃないですか。いつ収穫になるんだとか、昨年とずれちゃったりしますし。予定が組めないですもんねえ。なかなか難しいですね。そうなんですよね。毎年、同じ方が来てくれればいいんですけどね。若い方はどうしても子供の手が離れると正社員とかで働きに出ちゃうじゃないですか。保育園の頃とかはね昼間来てくれたりとか、パートで短時間でも来てくれるんですけどね。

◇ご趣味はバイクなんですよ。バイク仲間とかで商売に繋がることってありますか？

☆そうですねえ。バイクだとこの店の前の道は走りやすいので、ツーリングで”りんご狩り”に来てくださいますね。フェイスブックやSNS、ホームページとかにも載せているので、愛知県のバイクに乗る方とお友達になったりとか。一度来て気に入っていただくと本当にちょうどいい距離みたいで、1シーズンに3回も4回も来てくださったり。それこそバイクに乗りたい人は目的地があるといいみたいで、ここに来てちょこっと買っていたり、ここで喋ったりっていうのが楽しいみたいで。結構お友達とかも連れてきてくれます。そういう繋がりがあるといいですね。これからは輪が広がっていくといいですね。バイクの他に趣味はありますか？ん～。今はねシールドばかりやってるんで、飲み歩きとか。あっ、ソフトバレーもやってます。色々できなくなってきたんですけど、それだけはね。この間大会があって、人数が少なくて交代がいなかったからちょっと頑張りが過ぎちゃったら青あざできたり、次の日ハシゴ登れないほどの筋肉痛で(笑)。大会が

毎年1回あるので、それに向けて集中的に2週間位前から週3回位練習して。で、大会に出て、その後は飲んで♪みたいな。楽しそ〜！そうそうそう、それが楽しみで！上は50代から下は20代の子まで、この「ましの」っていう地区でやってるんです。男性はソフトボール、女性はソフトバレーなんですけど楽しいんですよね。この地区にお嫁に来た人たちも、その別に勝ち負けじゃないので「一緒にやろうよ」って言って出てきて、特にお酒が飲めると余計にこう盛り上がるし。まあ飲めなくても運動が好きなら出てきて最後までいたり。その中でそれこそ子育て論をしたりして。まだ小さい子が2人いる若いお母さんと話してたら、「暢子さん、今度本を出してください。すごい気持ちが楽になりました」って言われて。「あ〜、そ〜う。そんな風に言ってくれて嬉しいよ〜。」っていうこととかあったりして。今まで私もそうやって先輩達に色々子育てのこととか、仕事のこととか聞いてきたので、地区の人の仲がいいっていうのはホントにいいなあって思って。ママ友とかって悩みは一緒かもしれないけど、なかなか解決までいかないっていうか、経験が同じじゃないですか。言い合っておしまいみたいなね。そうなんです。先輩とかだと経験を聞いたりとか、聞いてもらったりとか。それが正しいとか正しくないとかじゃなくって、参考になるっていうか。聞く機会があるっていうのは、地域の仲がいいっていうか、まとまってるから、すごい『ましの』っていいところだなあと思って。だから、こう色々やっても盛り上がるっていうか。お祭りとかも盛り上がるし、人も集まるし。今20代の子たちも実家に戻ってきてるんですよね。いい地域だなあと思います。

◇竹村さんのストレス解消法はなんですか？

☆ん〜、私の一番のストレス解消法は、刈払機で草刈りすることなんですよ！ハハハ。とにかく汗かくと、バレーとかもそうですけどスッカリするっていうか。昔は運動が嫌いだったんですけどね。学生の頃はひかには体育の授業をサボるかってことしか考えてなくて（笑）。え〜、そうなんですか？運動大嫌いだった私が「ソフトバレー行く行く！」って変わっちゃって。汗かくとスッカリしません？ん〜（返答に困る）刈払機を思いっきり使うと手がしびれるんですけど「あ〜スッカリした〜」って（笑）。まあ汗をかくことが解消になるかな。ちょっとずつ草を抜くような、地味〜な草取りとかは嫌なんですよ（笑）。

◇特によく作る食事のメニューはありますか？

☆週1でカレー作ってたので、子供が帰ってきて「何食べたい？」って聞くと「カレー食べたい」って。寮とかにいと自分の好みの味じゃないらしくて。次男も1年間寮に住んでたので、帰ってくるときは「お母さんカレーにして。お母さんのカレーが食べたい」って言うてくれてたので。ん〜、いいですねえ。じゃあカレーがお袋の味ですね。そんな感じですね。

◇竹村さんは立科町のご出身ということで、松川町に嫁がれてから何かとまどったことはありますか？

☆高校卒業して進学っていう形で飯田の短大に来たんですけど、同じ長野県とは思えないほど、語尾に「な〜」とか「に〜」とか「だら〜」とかって言う言葉にビックリでした。

私はずっと長野市なんですけど、うちの主人も飯田なんですよ。普段は普通に話してるんですけど、こっちに帰ると私も「な～」とか一緒になって言ってます。言葉がうつるっていうか、自然に出ちゃうっていうか。そうそう！なんか語尾が優しいよねえ。「な～」とか「に～」とか。あ～、分かります。私も短大の頃は「」だら」とか絶対使わないぞ」って思ってたんですけど、嫁に来たらだんだん普通に使うようになって。でももう、すっかりこっちの人なんで（笑）。言葉遣いだけでも溶け込んでる感じがしますよね。

◇嫁ぎ先が農家ということで、抵抗とか不安はありませんでしたか？

☆実家も農業をしていたんですよ。当時はコンバインもなくて、はざ掛けとか嫌で嫌で、「絶対、農業だけはイヤ」って思ってたんですよ。主人が就農したときは、私は勤めてたんですが、収穫の頃あまりにも忙しかったので手伝ったら「収穫っておもしろいなあ」って。当時はまだ何も分からないので「赤いの穫ってね」って言われた通り、赤く実ったものだけ穫るって感じで、りんご狩りの延長ですよ。周りもそんなに期待してないから多くを課せられないので楽しかったんですよ。それから仕事辞めて農業やるかってことになって。で、家に入って子育てしながら手伝ったりして。子供も続けて生まれたので3～4年はほぼ子育てで、その間は収穫とか伝票打ちとか手伝ってたくらいで、本格的にやり出したのは3男が2歳位の時、未満児で保育園に預けながらですね。あれから15～6年経ちますけど、今はもう1年中携わってますね。でも自営業って自分の考えてやった事が結果になって返ってくるので、面白いですね。ホームページをリニューアルしたら、お客さんも増えたりとか。この直売所も、この春までむき出しの鉄骨だったんですよ。露骨な感じで、この壁も窓もなくて車庫の一角を直売所にしてたんですけど、車庫の部分を区切って入り口を作ったり、暗かったのでドアや窓を付けたりしたら便利になって。段々欲が出てこの春に壁と天井も貼って。雨が降ると何も聞こえない位うるさかったんですよ。断熱材も入れたし。本当に夏なんていられないくらい暑かったんで。少しずつ進化させていける、これやったから結果が出て、こうなっていくみたいな。それが1つずつ積み重なっていくところがおもしろいなと思って。

◇いと思う”田舎”とか”農業”のイメージってどうですか？

☆農家も経営をしていく時代かな～、じゃないと生き残れないということじゃないですけど、その方が面白いのかな。すごいですね～。でも、地道にやっている方もいらっしゃるし、ちゃんと生活していらっしゃるんで、それはそれで有りなんでしょうけど、私は色んな事をやった方が面白いと思います。ビジネスホテルのフロント係をしていたので人と接するのが好きなんです。出来れば接客をメインでやりたいんだけど、農作業が回っていかないんで。お客さんもこの景色と静かな環境を求めてて、”買い求めに来る”だけじゃなくて、今は、時間を楽しみながら買ったり、自分で穫ったものを買っていくので、昔と求めるものが少し違ってきているのを感じています。だから、この原風景を残しながら、くつろげる空間を感じてもらって、癒やされてもらえばいいな。

◇シードルへの熱い思いを聞かせて下さい。

☆あと2時間くらい喋っちゃいますけど、いいですか～（笑）。

今までずっとリンゴ農家をやってきて、3年位前にシードルを委託醸造で作って販売を始めたんですけど。最初に資格を取ったのは飯田市のポム・ド・リエゾンです。それまでは商品が増えた位の意識しかなかったんですけど、資格を取るために勉強していくうちに、世界中で飲まれていて、しかも、自分で作っているリンゴでおいしいお酒が出来る。おいしいし、次の日に酔いが残らないんで飲みやすいし、色んなタイプがあって奥が深いなって、ハマりだしたんです。だんだんイベントに顔を出すようになって、農家の立場で”私の原料で作ったシードルです”ってプレゼンするようになって、仕事としてシードルって面白いなって感じ始めました。町からドイツに視察に行ってくれなかって誘いがあったので視察に行かせてもらいました。帰ってきて報告会をしたり、仲間たちとイベントやったりしていくうちに、シードルを通してリンゴの消費拡大も出来るし、松川町の農業を守っていけるんじゃないかくらいに広がって。シードルがあることでリンゴが食べられる、リンゴが食べられることで松川町の農家が繁栄する、そのことによって農家が残っていく、そして、この美しい里山がいつまでも残っていく。自分の中じゃ”凄いじゃん、わたし頑張ろー！”みたいな。町にはリンゴ以外にも良い物が沢山あるので、シードルを買いに来たお客さんが、いろいろな物を買ってくれば、頑張ってる町の農家も潤って、町づくりとかのきっかけになればいいなって思ってます。今年は、卸売免許を取って酒屋さんとかでピンで売って頂けるようにちょっとずつ拡大しています。来年はワイナリーを開設します。素晴らしい～。委託だとロットが決まっちゃうし、色々試したりしているんですけどお金が掛かってやりきれないんで、自分で作ればいいなと思っていた時に、仲間が集まって一緒にやってもらえる事になったんです。じゃ、やるか、やるなら今しかないか、もう歳とっちゃうって感じ。そんなそんなまだまだまだ、これからですよ！

◇松川りんごワインシードル振興会は、どんな会なんですか？

☆最初は、直売所でお酒を売る免許を同じ時期に取った農家5軒が、情報交換やイベントをするために作った会です。免許を取った農家が加わって増えて、今年は11軒になったんですよ。ほかに免許申請をしている方が結構いるので、これからも増えていく感じです。お酒のことなので酒税の勉強をしたり、直売所に来ていただいたお客さんが何を買ったらいいか迷った時にアドバイス出来るように、ソムリエを呼んでテイastingセミナーを開いて香りや色などの表現を勉強しています。地域全体で勉強して、ただ売るのではなくて、思いを込めて説明出来るようになっていけるようなセミナーです。お客さんに、そういう思いを伝えたい・・・という感じですか？そうですね。まず、売っている人たちが自分の商品を知らないといけないと思います。

◇農作業をするにあたって、こういうのがあればいいなって思うものはありますか？

☆う～ん。女性なので着る物とかですかね～。（かと言って白いワンピースを着て作業するわけにはいかないんで 笑）若い子たちには、とにかく日焼けはしちやいけないって、（ほんとに）どれだけ怪しいと思われてもいいから”囲え”って言ってますけど、ダサいから囲わないんですよ。今は、結構おしゃれな服が並んでいるお店も少しずつ出てきまし

たね。

女性用の農作業用レインコートを売り出したって聞きました。機能性を持った、おしゃれな作業着があると、若い女の子達のやる気が更にＵＰしますよね。

◇今後、新たに始めたいことはありますか？

☆これ以外に？今はいっぱい、いっぱいです(^_^;)。今は、ワイナリーの開設を成功させないと。クラウドファンディングが始まったんです。建物が立って、稼働するのが楽しみなので、全力で頑張ります。でも、買っていただけるファンがいなければ何も始まらないので、一所懸命ファン作りをしたいです。県内のあちこちで飲んでいただけるようになればいいなと思っています。

朝から晩まで農園内を暇なく動き回る傍ら、シードルの普及を目指して様々な場所でシードルの魅力を発信する活動にも積極的に携わっている暢子さん。この里山を残すため、地域の農業を守っていくためにも、シードルを地域ブランドにしたい！と日々奮闘しています。小柄な姿からは想像もできないほど行動力があり、お話ししていても周りの人を惹きつける魅力のある暢子さんでした。

お酒が好きな方、シードルを求めてぜひ松川町へおでかけになってみてはいかがでしょうか！



マッキーがおじゃまします！
関東農政局長野県拠点